
大島 様 (シアトル) からの便り

米国シアトル在住の日本人である大島史美 様(37 歳)が、感染性心内膜炎後の僧帽弁形成術を慶應病院で受けるために来日し、2011 年 11 月にポートアクセス法(右小切開)で僧帽弁形成術を受けられました。

退院後シアトルに帰られ、お元気な様子のメールを頂きました。

大島様はシアトルの医療機関で形成術の可能性は50%以下で手術は正中切開の大きな傷になると言われました。ご本人の了解のもと、メールを紹介します。

四津先生
心臓血管外科の先生へ

昨年 11 月 7 日に、感染性心内膜炎後の僧帽弁形成術をして頂いた大島史美 (#21-XXXX)です。

術後も先生にお世話になり、また岡本先生にもフォローアップをして頂き、2 月 8 日にお蔭様で無事シアトルに戻ることができました。2 月の後半にこちらの担当の Cardiologist にフォローアップをして頂き、3 月 8 日 9 日には 24 時間ホルターテストとエコーを行い、本日 21 日にこれらのテスト結果に基づくコンサルを行って頂きました。

担当の Cardiologist は、They did an excellent and brilliant job! Really a topnotch!! I'm glad you went back to Japan. と興奮して何回もおっしゃっており、これがポートアクセス法でされたことが本当にすごい、Topnotch, topnotch と何回もおっしゃっていました。

また、手術跡も見て頂きましたが、They did an excellent job! とおっしゃっていました。

テスト結果はよく、逆流度は Trace で正常とのことでした。また脈も平均 80 代で徐々に今後運動量が増えるにつれ、下がっていくであろうとのことでした。確かに、現在まで少しずつ脈は下がってきております。仕事も運動も普通にしてよいと担当の Cardiologist に本日言って頂きました。体力仕事のため、余裕をもって少しずつ復帰していきたいと考えております。

私初め家族共々、先生方に素晴らしい技術の元で施術して頂き、本当に感謝しております。アメリカからの私の問合せメールに先生方からご返信頂き、帰国する決心をすることができました。またその後、術前術後に渡り先生方に本当に細かく、いろいろお世話になりました。

心内膜炎治療直後に飛び乗った日本に向かう飛行機の中では地獄にいるような心境でしたが、帰りの飛行機では本当に安心してこちらに戻ってくることができました。

重ねて心よりお礼申し上げます。

メールにて大変失礼とは思いましたが、直接お礼を言いたく送らせて頂いた次第です。

シアトル より
大島史美
